

分類名 [病害虫]

3 カルプロパミド粒剤（ウイン箱粒剤）及びプロホベナゾール24%粒剤（Dr. オリゼ箱粒剤）の育苗箱施用によるイネいもち病（葉いもち）の防除

農業センター

1) 取り上げた理由

イネいもち病（葉いもち）を長期間抑制する省力防除法として、ウイン箱粒剤、Dr. オリゼ箱粒剤の育苗箱施用での実用性が認められたので参考資料とする。

2) 参考資料

(1) カルプロパミド粒剤（商品名：ウイン箱粒剤）

- a 有効成分：カルプロパミド4.0%
- b 性状：粒状
- c 毒性：普通物，A類（魚毒性）
- d 安全使用基準：2回
- e 適用病害：いもち病
- f 使用方法
 - a) 使用時期：移植当日～移植3日前
 - b) 施用量：一箱当たり50g
 - c) 使用方法：育苗箱施用

(2) プロホベナゾール24%粒剤（商品名：Dr. オリゼ箱粒剤）

- a 有効成分：プロホベナゾール24.0%
- b 性状：粒状
- c 毒性：普通物，A類（魚毒性）
- d 安全使用基準：2回
- e 適用病害：いもち病
- f 使用方法
 - a) 使用時期：移植当日～移植3日前
 - b) 施用量：一箱当たり50g
 - c) 使用方法：育苗箱施用

3) 対象地域

県内一円

4) 特に留意すべき事項

- (1) 育苗箱の上から均一に散布し、葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水して田植機にかけ

る。

- (2) 軟弱徒長苗，むれ苗，移植適期を過ぎた苗などには薬害を生じる恐れがあるので注意する。
- (3) 代かきは丁寧にいき，移植後田面が露出しないようにする。
- (4) 移植後は活着するまで湛水状態（湛水深3～5cm）を保つ。また，深植えを避ける。
- (5) 本田が砂質土壌の水田や漏水田，未熟有機物多用田の場合には使用をしない。
- (6) 本田への移植後低温が続く，苗の活着遅延が予想される場合は使用しない。
- (7) Dr. オリゼ箱粒剤を処理した苗を移植した本田ではスタム，DCPA剤は使用しない。

5) 背景となった主要な試験研究の概要

- (1) 研究機関名及び担当部科名 農業センター作物保護部病害虫科
- (2) 研究課題名及び研究期間
新農薬による病害虫防除試験 平成7年
大区画ほ場の超低コスト技術体系の確立 平成6～8年
- (3) 参考データ

表1 葉いもちに対するウィン箱粒剤の効果（平成7年）

供試薬剤	施用量	施用方法	7月13日調査		7月24日調査			薬害
			発病株率(%)	病斑数個/株	発病株率(%)	病斑面積率(%)	防除価	
ウィン箱粒剤	50g/箱	箱施用(移植当日)	43.7	1.6	96.7	0.066	97	—
ビームS粒剤	100g/箱	箱施用(移植当日)	100.0	10.1	100.0	0.475	82	—
オリゼメート粒剤	3kg/10a	水面施用	40.0	0.8	85.0	0.028	99	—
無処理			100.0	46.7	100.0	2.599	—	

品種：ササニシキ 田植：5月10日 出穂期：8月4日 葉いもち初発：7月4日（罹病苗設置）

オリゼメート粒剤水面施用：6月16日

表2 葉いもちに対するDr. オリゼ箱粒剤の効果（平成8年）

供試薬剤	施用量	施用方法（時期）	7月16日調査		7月26日調査			薬害
			発病株率(%)	病斑数個/株	発病株率(%)	病斑面積率(%)	防除価	
Dr. オリゼ箱粒剤	50g/箱	箱施用(移植当日)	12.5	0.30	67.5	0.32	81.7	—
オリゼメート粒剤	3kg/10a	水面施用	40.0	0.8	97.9	0.58	66.9	—
無処理			100.0	46.7	100.0	1.75	—	

品種：ササニシキ 田植：5月8日 出穂期：8月9日 葉いもち初発：7月2日（罹病苗設置） オリゼメート粒剤水面施用：6月18日

(4) 発表論文等

参考価格：Dr. オリゼ箱粒剤 2,300円/1Kg袋（20箱分）

ウィン箱粒剤 2,320円/1Kg袋（20箱分）

